

平成27年度第1回広島市環境審議会 会議要旨

1 日時

平成27年5月23日（土） 午前10時～午前11時20分

2 場所

広島市役所本庁舎14階第5会議室

3 出席委員

岡田 光正（会長）、田中 純子（副会長）、大下 房子、大原 裕二、沖本 英里、佐々木 緑、寒川 起佳、谷 哲子、戸田 真紀、中城 秀典、中西 伸介、長谷川 弘、林 武広、柳下 正治、若松 伸司（以上15名）

4 次第

(1) 開会

(2) 副市長挨拶

(3) 委員の紹介

(4) 会長・副会長の選任

(5) 諮問「新たな広島市環境基本計画の策定について」

(6) 議事

ア 議題 第2次広島市環境基本計画の策定について

イ 報告 広島市地球温暖化対策地域推進計画の進捗状況（温室効果ガス排出量）及び広島市地球温暖化対策アクションプログラムについて

(7) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

0名

7 会議資料

- ・ 第2次広島市環境基本計画の策定について（案）
- ・ 広島市地球温暖化対策地域推進計画の進捗状況（温室効果ガス排出量）
- ・ 広島市地球温暖化対策アクションプログラム
- ・ 広島市環境の保全及び創造に関する基本条例
- ・ 広島市環境審議会規則
- ・ 広島市環境審議会の公開に関する取扱要領
- ・ 広島市環境基本計画（改定計画）

8 議事要旨

発言者	発言要旨
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諮問を頂いたので、早速、議事に入りたいと思う。 ・ 本日の議事は、2件である。まず、議題、第2次広島市環境基本計画の策定について、事務局から説明をお願いします。
環境政策課長	【第2次広島市環境基本計画の策定について説明】
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、ただ今の説明に関し、御質問・御意見等があればお願いします。 ・ 具体的な内容は恐らくこれから出てくるかと思うので、場合によってはもう一度戻ることがあるということも考えておいた方がよいと思う。
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別紙2に、環境基本計画を取り巻くいろいろな体系図があったが、環境概念の区分で都市環境という新しい概念を打ち出したのは、何らかの上位概念や上位計画など、何か政策の枠組みを作ったものがあったからなのか、あるいは今回が初めての提案なのか。 ・ 国ではこういった考え方をしておらず、他都市にこういう区分で整理しているところがあるのかは分からないが、どういう頭の整理をすればよいのか。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上位概念との関係の中で整理をしたというよりも、条例の内容、さらに、今後100年のまちづくりを契機に作る計画として、どのような区分がいいのかということ、今から人口が減っていく中で、環境の考え方をまちづくりにどのように反映させていくのかということから改めて考えた。 ・ 今後は、都市構造やまちづくりとの関連がもっと密接に出てくることが予想されるため、「快適」よりも「都市」という言葉の方がよいのではないかとということで、広島市としても今回初めて提案させていただくものである。
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の案を批判しているのではなく、人工的な空間みたいなものを環境概念として環境基本計画の中に入れ込もうという、積極的な物の見方を、この世の中に打ち出していくのだなということを確認したかった。 ・ 今回、初めての提案ということで頭の中を整理することにする。
若松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「都市」と「地球」は、ある意味では場の概念である。 ・ それに対して、「自然」や「生活」というのは、少し違う切り口である。 ・ 地球という大きな枠組みがあり、その中に、自然環境や人為的なものによる環境が一緒に入っているため、これでよいのかなという気が少ししている。 ・ もしできれば、いわゆる場の概念とそれを構成する要素の概念について、立体的というか構造的に整理すると、もう少し明確になるのではないかと思います。 ・ 私も決して市の案を批判しているわけではないが、全体の構成をどのようにするかということについては、もう少し皆様の御意見を頂いた上で検討した方がよいのではないかと思います。
環境局長	<ul style="list-style-type: none"> ・ これから骨子等を作っていく中で、頂いた御意見を念頭に置きながら整理

	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、先程、他都市で都市環境という言葉が使われているのかという話があったが、環境基本計画の中で都市環境というジャンルを設けて整理をしている政令指定都市は、例えば仙台市や相模原市など、いくつかあるということ報告させていただく。
中城委員	<ul style="list-style-type: none"> 都市環境に関連して、今回の環境基本計画は、エコまち法（都市の低炭素化の促進に関する法律）に基づくまちづくり、エコなまちづくり計画と関連して作るのかどうか、聞かせていただきたい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 環境基本計画の内容は、エコまち法の内容なども踏まえた上で検討することになる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> それでは、今いくつか御指摘いただいたが、今後、具体的な要素が提示された時点で再考することとし、原案を基に策定に係る作業を進めるということによろしいか。
各委員	<p>【「異議なし」の声】</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> それでは、これで進めさせていただければと思う。 次の議事に移る。報告、広島市地球温暖化対策地域推進計画の進捗状況（温室効果ガス排出量）及び広島市地球温暖化対策アクションプログラムについて、事務局から説明をお願いします。
温暖化対策課長	<p>【広島市地球温暖化対策地域推進計画の進捗状況（温室効果ガス排出量）及び広島市地球温暖化対策アクションプログラムについて説明】</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> 御質問・御意見等があればお願いします。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> アクションプログラムの1ページの「はじめに」にもあるように、既に広島市には、地球温暖化対策地域推進計画という計画がある。この計画と今回のアクションプログラムとの関係性はどうなっているのか。 また、これまでに、今回作られたアクションプログラムに類するものはあったのか。もしあったとすれば、そこでPDCAのようなことを行い、どこが上手くいってなかったのかといったところまで整理されているのか。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> 広島市地球温暖化対策地域推進計画とアクションプログラムとの位置関係についてだが、まず、広島市地球温暖化対策地域推進計画は、平成22年度を目標年度として策定した計画である。 しかし、国の地球温暖化対策計画の策定が遅れているので、本市としては、新たな計画の策定を一旦取り止め、平成22年度の目標数値をそのまま継続して掲げ、施策についても継続して取り組むことにした。 こうした中で、3か年にわたっての数値を見ると、民生部門の温室効果ガス排出量が増加の一途を続けていたことから、今回初めて、広島市地球温暖化対策地域推進計画の中でも重点的に取り組むべきプログラムをまとめ、これを広報ツールとして活用して、市民・事業者の皆様に改めて地球温暖化対策に、取り組んでいただこうとするものである。 また、PDCAサイクル、いわゆるマネジメントについては、広島市地球温暖化対策地域推進計画では行っていない。

沖本委員	<ul style="list-style-type: none"> 先程、廃棄物についての温室効果ガス排出量の推移に関して、焼却処分をしなくなったから、温室効果ガス排出量が減ったという御説明があったが、この廃棄物は、結局どのように最終処分されているのか。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> 燃料化を行い、再利用している。
寒川委員	<ul style="list-style-type: none"> 省エネで、太陽光発電のことがずいぶん取り上げられており、蓄電池を導入するということも書いてあるが、蓄電池はいくらぐらいのものなのか。 また、太陽光発電の買取価格は下がる一方なので、これを導入したときに、家庭の収支が赤字になるというようなことが起こり得るのではないかという懸念を私はしている。 CO₂を削減できるということだけではなく、経済的な負担や今後の見通しを考えた場合には、導入の推進には少し慎重になった方がよいのではないかと思う。 広島では原子力発電のことについてはなかなか言えないかもしれないが、最もCO₂を削減するのは原子力発電なので、原子力発電を安全なものにして、早く稼働することが、地球環境に対して最大の効果がある。 我々事業者は、太陽光発電は、現実的にいかなるものかと思っている。 買取価格もどんどん下がっており、政府の方も、下げるよう考えているようなので、今回、太陽光発電については、少し慎重に検討していただければと思う。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> 家庭用燃料電池の商品価格は、180万円程度である。 我々も、太陽光発電については、様々な課題を踏まえた対応が必要であると承知している。 また、太陽光発電の買取価格については、本市としては、国に対してFIT価格の堅持を求めているところである。 なお、エネルギー政策については、国が国民の生活と経済活動に責任を持ち、方針を決めるべきものであると考えている。
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガスに関する統計データを見ると、国の場合はもう既に2013年度までデータが出ている。 広島市としては2011年度のデータが最新なのか。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> 2011年度のデータが最新である。
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> 2011年度のデータが最新なのかということが少し気になった。2012年度くらいまでのデータがあるのではないか。 3.11を契機に、2011年度、2012年度のデータは全国的にもかなり変遷が激しく、特に東日本ではいろいろな変化がある。 今回の環境基本計画において、2020年くらいを目標に掲げるとした場合には、温暖化の状況がどうなっているのかということについて、2010年頃や2011年頃のデータで議論するのではなく、今現在どうなってるかという現状を把握した方がよいと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国のデータと比較すると、広島市のデータには若干解せないところがある。 ・ 3. 11があったのは、2011年の3月、2010年度である。そして、一般的には、日本の原子力発電所は2011年度から止まり、排出係数が非常に高くなっている。 ・ 全国的に言っても、2009年度にはリーマンショックがあったため、経済からの影響もあり、CO2排出量は下がった。そして、2010年度で若干上がり、排出係数の上昇に伴い、2011年度、2012年度、2013年度と大きく上がっている。 ・ ところが広島市のデータを見ると、民生部門の割合が高く、電気による影響が大きいはずなのに、原発事故があった後の方がCO2排出量が下がっている。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国電力には原子力発電所が1か所しかなく、ほとんどの電気が火力発電で供給されているため、従来から排出係数が高く、関西電力や東京電力のように、原子力発電所の稼働停止によって排出係数が倍近くになったわけではない。
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今温暖化を議論するときに、寒川委員が言われたように、いろいろな議論があるわけで、広島市の中でエネルギーの供給はこうあるべきであるということ、環境基本計画の議論で言ったところで、私は広島市として責任を負えないと思う。 ・ 一方で、広島市として責任を負える所についてはしっかりと議論してやるべきである。 ・ 温暖化に関しても、エネルギーの供給に関する要素と、エネルギーの使用に関する要素とを分けてデータを分析しなければならない。 ・ 常に温室効果ガスの排出量だけで見ていると、今非常に不安定な状況にある供給側の構造によっていかようにも数字が変わってしまう。 ・ もし原発が全部動いたら、しかもそれが80%や90%の非常に安定した運転をしたら、という「たら、れば」で考えれば、それだけで温室効果ガスの排出量は下がってしまう。 ・ 要するに、広島市として責任を負えるのは、エネルギーを使う側として、どれくらいのことをどういう政策でやるかということについてなのである。 ・ できれば、こういう説明をするときには、全体量だけではなく、認識を共有するための資料を提示していただくこともありがたい。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は時間の関係上、提出していないが、供給側の原単位であるとか、使う側の人口や世帯であるとか、それから、業務系について言えば、事業床面積などのデータも整理はしている。 ・ また、最新のデータについては、平成24年度のものが近々出る。 ・ 国の速報値としては平成25年度分が公表されていることから、本市のデータについても、今までは確定値が出るまでは公表していなかったが、今年度に入り、速報値で公表することについても検討をしているところである。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の審議会にはもう少し精ちなデータを出したいと思う。
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今のことにも関連すると思うのだが、アクションプログラムの4ページに、家庭部門と業務部門からの温室効果ガス排出量が大幅に増加したということが書かれている。 ・ 1990年という時代を考えると、20年も前の話であり、そことの比較をすることへの違和感というものがある。 ・ 表1に書かれているように、広島市の世帯数は増加しており、業務床面積も、相当増加している。 ・ こうした中で、家庭部門や業務部門という総量で見えてしまうと、排出量が増加するのは否めないのではないかと思った。 ・ こういう時には、排出量を世帯数で割るなどして、本当に、実質的にはどうなのかということ算出した方が、より施策に反映していけるのではないかと思った。
林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終的には、市民の皆様にも、いろいろと努力目標として伝えることになるのだろうが、市民の皆様は結構頑張っているのではないかと私は思う。 ・ それなのに家庭部門も業務部門も増えているというのは、一体何故なのだろうかと思った。データがあるのであれば次回くらいに示していただければと思う。 ・ 冷蔵庫などの家電製品や車の性能、世帯当たりの排出量などについても説明していただくと、より分かりやすいのではないかと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ データはもう整理されているはずなので、次回までに出していただければ、今の御質問に答えられると思うのでよろしく願います。
中西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ このアクションプログラムを見ると、各家庭や各事業者が行動を変えたり、設備機器を変えたり、そういうことで対応しなさいというふうに見える。 ・ せっかく今回、概念として都市環境というものを入れているので、例えば、風の通り道を確保して、ヒートアイランド現象を緩和する、要するに冷たい空気の通り道を作るような都市構造にすると、夏の冷房負荷が全体で小さくなってくれるのではないか。 ・ せっかく総合的なものを考えようとしているので、一つ一つの対策だけというよりは、全体を考えて、どうすれば効果的に、家庭や事業所の冷暖房負荷が小さくできるかということを考えてはどうか。 ・ 例えば地中熱を使うというのであれば、設備基準だけではなくて、ヒート/クールチューブを使うことで、冷暖房の負荷を下げるという方法もある。 ・ アクションプログラムには、いろいろなものを挙げているが、結局は何かしらのアクティブな技術を使っているのもっとパッシブな、自然エネルギーだけで電気エネルギーをゼロにできるような技術を検討することも必要ではないか。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日はこれまでの二つの議事であったが、全体を通じて御質問・御意見等があれば、再度承りたいと思うがいかがか。
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球温暖化対策も環境基本計画の一つの柱だと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ もちろん、市として低炭素型の空間づくりをどうするかということが重要だと思うのだが、あわせて、世界的にあるいは全国的に、適応という問題を真剣に考えなければならない時代が来たと思う。 ・ どうしても気になるのが、去年の広島の大災害の問題である。この災害が地球温暖化問題とどう絡むかということについては、科学の世界で証明してもらうしかないのだが、既にそういう問題が指摘され、国の、あるいは国際社会の中で、そういうものをどういうふうに取り入れるかということは政策の柱になっているので、温暖化対策アクションプランという中ではなかなか表現できないと思うが、今回のこの環境基本計画の中では、その辺を念頭に置くということが大事ではないかと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適応策の件はどのような予定になっているのか。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適応策については、国の方針が8月にも示されると聞いている。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の環境基本計画の中には、災害の視点や農作物などへの影響という視点も取り入れたい。 ・ また、国の方針を作ることを契機に、適応策についても、できることから整理し、まとめていくことにも着手しなければならないと考えている。
戸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市は、水と緑ということで、いろいろな自然環境に恵まれた土地だという説明が最初にあった。 ・ そして、世界に本当に誇れるようなまちにしたいというお気持ちを伺い、今、地球温暖化という議論もあったが、川や、私たちが普通に家で使う排水などに関して、水という観点からの環境を考える政策がどのようになっているのだろうかと思った。 ・ 主婦としては、排水として油を流さないなどといったことを考えていくように取り組んでいきたいと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の審議会の個別のところでは仰るような視点が出てくると思うので、忘れないようにしてほしい。 ・ それでは、以上をもって本日の会議を終了させていただく。